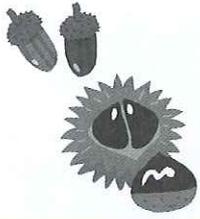


しちがはま ボランティア情報誌



# ドリー夢



No.19  
2014.9.1

編集発行／七ヶ浜町ボランティアセンター〈七ヶ浜町社会福祉協議会〉

〒985-0821 宮城県宮城郡七ヶ浜町汐見台7丁目8-153 TEL.022-349-7781  
E-mail : sitigahamasyakyo@ia8.itkeeper.ne.jp FAX.022-349-7782  
http://msv3151.c-bosai.jp/group.php?gid=11044



## 今月号の内容

- 山形県から中学生が作業研修に来てくれました!
- 世代間交流事業 夏休み料理教室
- 寄稿
- 「おらほのパソコン教室」参加者!ボランティア先生募集!
- 「七ヶ浜町災害ボランティアセンター活動の記録誌」作成中です!!
- リーダーボランティアと新たな団体の「ち・から」
- 託児サポーター&子育て応援ボランティアの集い開催しました!
- 七ヶ浜の元気な人たち
- 特定非営利活動法人 レスキューストックヤード
- 七ヶ浜学習支援ボランティア
- 親子スマイルフェスタにおもちゃ病院が!!

## 楽しい! おらほのサロン!

仮設住宅集会所でのサロンです

平成24年3月に仮設集会所にて、「おらほのラジオ体操」と「茶話会」を組み合わせたサロンを開催、4月より「おらほのサロン」として始動しています。サロン出席者の方々から、手作りキット等があると嬉しいとの要望があり、平成25年10月よりハンドメイドの根付け作りもしています。月に一回、第1スポーツ・七中・仮設住宅集会所で開催中。集いの場として皆さんと一緒に楽しい時間を過ごしています!

※表紙作成者は境山在住 石川洋平さんです

# 山形県から中学生が 作業研修に来てくれました!

海の無いまちから七ヶ浜に元気と笑顔をお届けにきてくれました!  
昨年から続く継続活動です。

- 5月20日 朝日町立朝日中学校 2年生 50名
- 5月22日 西川町立西川中学校 2年生 50名
- 7月 4日 山形市立第6中学校 2年生 300名



私は今回のボランティアで  
学んだ事があります。

それは仲間と協力すれば、  
どんなことでもできることを  
学びました!浜清掃をして  
友達などと協力したからこ  
ろ浜が綺麗になったのだと  
思いました。

ボランティアを通して学んだ  
ことをこれからの生活に活か  
していきたいと思います。

西川町立西川中学校 2年  
後藤里緒奈



## どんな小さなことでも積極的に

「これが本当に七ヶ浜の復興の役に立つのか。」と思いながら  
作業を続けていた。僕達が行ったことはとても小さなことだ。しか  
し、全力を尽くすのみ。津波で家族や家をなくした人々のことを  
考えると貝殻拾いやゴミ拾いなどの疲れなんか感じなかった。僕  
達が七ヶ浜の「太陽」になることができたかかわからないが、僕自  
身が、このボランティアで成長できた。とても充実していて、良い  
経験になった。合唱も一生懸命歌った。七ヶ浜の人に思いが届  
いてくれおともうれしい。応援も同じだ。東北が元気になるよ  
う、大きな声で応援した。

僕は、今回学んだボランティア精神を忘れず、自分にできるど  
んな小さなことでも積極的に行っていきたいと思う。この小さな  
ことの積み重ねが、大きいものにつながることを信じて、これから  
の生活を送っていきたいと思う。

山形第6中学校 2年6組 伊藤 朝



田んぼの瓦礫除去作業では遅々として進まず、皆さんにご心配をおかけしました。完全とはいえませんが、ひととおり、一つの田んぼを終了させることが出来たのが何よりです。また交流会では沢山の方に来て頂き皆さんの前で発表できたこと、そしてスタッフの方からの温かいお言葉に自信を持つ事が出来ました。

今回そして前回もですが、皆さんがセヶ浜を誇りに思っていることを感じました。その姿を見て、自分が住んでいる町をそのように思える生徒に育てていきたいと思いました。

朝日町立朝日町中学校  
教諭 林 あけみ

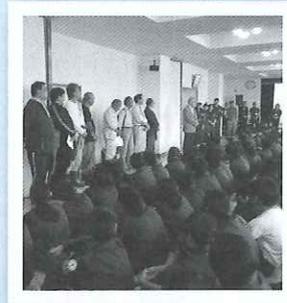
震災と人の強さ、あたたかさを学んだ

特に強く心に残ったことは、たくさんの人のつながりと、その心のあたたかさです。

バスでセヶ浜を回りましたが、一見、町がとてもきれいで、津波にのまれてしまったなんて思えないほどでした。でも、ボランティアリーダーの方のお話では、甚大な被害を受けたとおっしゃっていて、私が見ている町の風景は、全国からの復興への想いの結果なんだと思いました。

震災直後から現在まで、たくさんの人のボランティア活動とボランティアに対するあたたかい心がつながってきて、今のセヶ浜町があるのではないかと思います。

山形第6中学校 2年7組 佐藤 優生



協力ボランティア

山形県の中学生総勢・400人を受け入れるには、ボランティアさんの力が不可欠です。

「去年もきてくれたからね～」と富山や東京からこの日に合わせて、リーダーボランティアが来てくれました。

またリーダーのお一人菊地義徳さん(泉区在住)が、ボランティア活動の体験談を山形第六中学校2年生300名の皆さん方に話して下さいました！



今年も応援  
ありがとう♪



世代間交流事業

楽しかったね! キャラ弁大成功♪  
「夏休み料理教室」

7月29日(火) 中央公民館

食べるのが  
もったいないな♪



参加者の皆さんはキャラ弁作りに興味しんしん!お弁当箱の中にどうやってキャラクターの顔を作ろうかな〜♪

先生に聞いたり、お友達と悩んだり、逆におばあちゃんに教えてあげたり、とっても楽しい料理教室でしたね。

毎年参加してくれているお友達や、開催を楽しみにしてくれているお母さん。新しく参加してくれた皆さん!また、来て下さいね♪

完成したよ♪



パソコン教室ボランティア講師に参加して

松尾 憲正(東京都在住)

昨年の5月から、パソコン教室に参加しています。震災の3か月後の6月に、まだガレキの残っている石巻と女川を訪れました。その後も、陸前高田の一本松や気仙沼の第18共徳丸も訪れ、去年は福島原発の近くまで行きました。震災後何か出来ないかと思いつつ、僅かな募金程度しか出来ませんでした。ガレキ撤去などの体力勝負でない復興支援は何か無いかとネットを探していたところ、セヶ浜町ボランティアセンターのホームページに「パソコンを教えてくれるボランティアさん募集」の記事を見つけ、これならば、私でも協力は可能と思い、電話で問い合わせをして、その後毎月参加しています。参加している生徒さん方は津波の被害のあった人、そうでない人いろいろの様ですが、表面上は分かりません。たまたま教室に参加された「仮設」に住んでいる人から現状を聞く機会があり、相当過酷なのだと思います。また、ボランティアセンターも高台にあり、津波の影響を受けていないので、パソコン教室に参加しているだけだと、震災の影響は感じられません。震災の被害があった喜蒲田浜など出来るだけ見に行っています。

復興が、実感出来る支援に参加出来ないかな…と  
思っています。パソコン教室については、もっと地元  
の人が中心に運営が、出来ないのかとも思います。



おらほのパソコン教室!参加者!ボランティア先生募集!

日時/平成26年9月19日・20日、10月17日・18日、11月21日・22日、12月12日・13日(いずれも金曜日・土曜日です)  
時間/(午前の部)10時~11時30分 (午後の部)13時30分~15時 ※パソコン持ち込み可  
対象/初級レベルの方・仮設住宅・みなし住宅・町内の方  
※ボランティア先生は町内外大歓迎です!

## 『七ヶ浜町災害ボランティアセンター活動の記録誌』 作成中です!!

七ヶ浜町は、東日本大震災に対する記憶・経験、そして教訓を後世に伝えるため、東日本大震災 七ヶ浜町震災記録集「次代への伝承」を発行しました。その第三章「行政の対応」の中に「ボランティアセンターの活動」をご紹介いただきましたが、ボランティアセンターの活動を更に詳しく記録するため、記録誌の編纂を行っております。編集には東北大学科学国際研究所の佐藤翔輔先生をはじめ、センター運営スタッフやボランティアスタッフ、また、多くのみなさまにご協力をいただいております。

復旧・復興へ大きな力となっていた、80,000人近くのボランティアさん。その活動の拠点となった、七ヶ浜町災害ボランティアセンターの活動を記録に残し、今後日本のどこかで起こるかもしれない災害や100年後、200年後に起こる災害に必ず役立つであろうと信じています。



## リーダーボランティアと新たな団体の 「ち・か・ら」

浜を元気に！七ヶ浜町復興支援ボランティアセンターは昨年10月より外作業は収束を迎えております。しかし、この3年の間、約8万近いボランティアが活動に来ています。復興に進む町を「第2の故郷」と思い、幾度も足を運ばれる方達が後を絶ちません。「浜を清掃させてほしい」「視察研修を受け入れてほしい」等、またボランティアさんへの活動依頼も多々あります。

その調整後の活動を支えているのが、震災後に結成されたボランティア団体、そして「リーダーボランティア」の面々です。中には活動日にあわせて、県外からも来てくれます。

また町民農園の管理等も自主的にしてくれています。

縁の下の力！

そして、今のボラセンの大切な「ち・か・ら」なのです。



〔団体名〕

- ボランティアグループ「ひょうたん倶楽部」
- 七ヶ浜復興研究室「なならほ」
- ナナハマビト
- からだ復興支援隊ボディヶ浜
- かだっぺ「七ヶ浜」

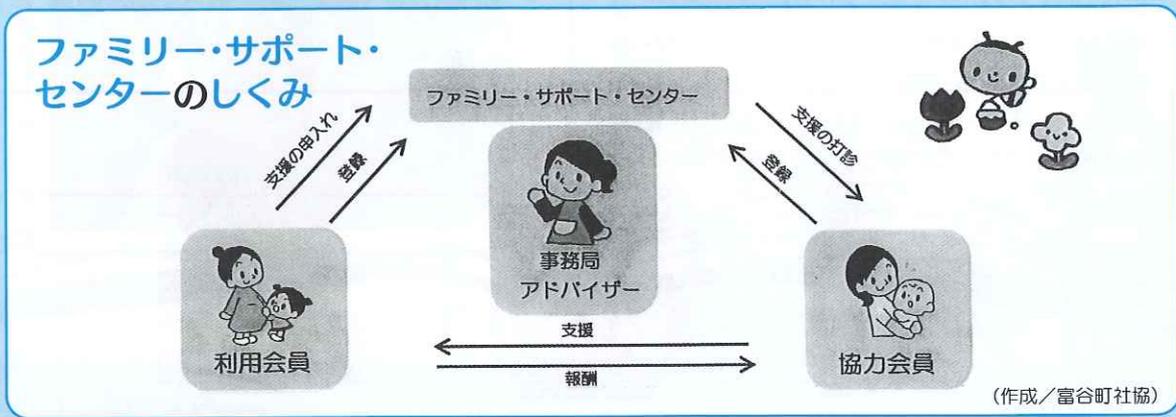
# 7月16日(水) 託児サポーター & 子育て応援ボランティアの集い 開催しました! in 中央公民館

皆さんは、「託児ファミリーサポート」をごぞんじですか？

託児ファミリーサポートとは、地域において育児の援助を受けたい人と行いたい人が会員となり、育児について助け合う会員組織です。

七ヶ浜町ではまだセンターはできていませんが、震災前から「託児ボランティア」の組織があり、地域の子育てを応援してきました。

将来の託児サポートセンターの設立を目指して、町子育て支援センターと協力し、賛同して下さる方達が集合しました。



## 1 町保健師さんからの「七ヶ浜の子育て事情」をお聞きました!



遅くまで仕事の家庭や  
近所に親戚がないとき…。  
「幼い子どもをどうしたらいいのでしょうか？」

赤ちゃんを抱える若いママ!  
「少しでもリフレッシュできれば…」  
問題は今後増えていくばかりです。

## 2 フリートークで「世代間交流」

「昔は子育てグループがあったよね!」  
「祖母や祖父に頼んで、出かけたけど…。」  
「友達が近所にいないの…。」  
「子育て支援センターをもっと利用できれば…」



## 3 これからの託児サポートを支えるメンバーと集合写真



# 七ヶ浜の元気な人たち

## 大好きな七ヶ浜

渡辺 正二(菖蒲田浜)

私は1944年生まれの70歳です。七ヶ浜の菖蒲田浜に生まれ育ちました。

私達の年代には七ヶ浜には幼稚園も無く、子どもの頃は外で遊ぶことばかりでした。浜や山、川、阿川沼、浜では野球、陣取り、竹馬。空き地や道端ではパッタ(メンコ)、玉っこ(ビー玉)、コマ回し。川や沼ではフナ、ウナギ、ナマズ、いっぱいいました。冬は阿川沼や川、田んぼに氷が張り、たっぴ滑り(氷滑り)など誰も家の中で遊んでいる子ども達はいませんでした。

学校では冬になると全校生徒でストーブに焚く枯木やこぼれ(松の枯葉)拾いに行ったりしました。夏休みには菖蒲田浜にある立石という島でギャングごっこをしたり、皆真っ黒になって遊びました。

この頃の七ヶ浜は子ども心にもほんとうに「ステキナ町」と言うより「大好きな村」でした。

時代とともに変わってきました。

2011年3月11日の大震災で大きなダメージを受けましたが、国内外から何万人というボランティアさんのおかげでここまで復旧復興しました。

今でも七ヶ浜には伝統と歴史、自然がいっぱい残っています。古い行事やお祭りも生きています。

いくつになっても、こんな七ヶ浜が大好きな私です。



## 《ボランティアグループ紹介》

### ポッケの会

代表 星 由美子(遠山)

私達「ポッケの会」は平成24年4月「町子育て支援センター」で親しくなったママ達が、震災後に子育て支援センターの職員さんをはじめ、多くの方から沢山の支援を頂いたことに、恩返しがたくて立ち上げた会です。

主に子育て支援センターでのイベントで小さい子どもの見守りやお母さん達の話相手などの簡単な手伝いをしています。

自分達も子ども達が小学生くらいとまだ子育ての途中ですが、時間が空いた時だけの力まない活動を続けていけたらと思っています。



## 活動を通じて広がった、多くの方々との出会い

菊池 満(汐見台在住)

私は七ヶ浜町内に夫婦二人で住んでいます。

大震災はお陰様で大きな被害もなく、多少の不自由な暮らしで済みました。

4月に入ってから夫婦でボランティアセンターを訪れ、活動をはじめました。

当初の現場での作業は被害の状況も激しく、大変な労力でした。道具も十分に揃ってなかったので、瓦礫の中から車輪のついた物を見つけては運搬に活用したり、大変だったことを思い出します。

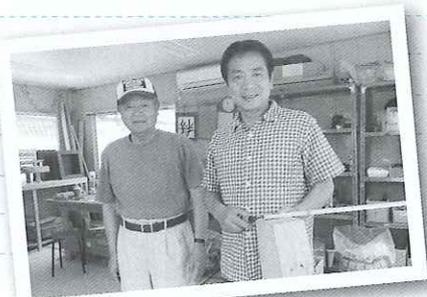
町全体を見渡せば普及はまさに牛歩そのものでしたが、皆で作業した現場は確実に綺麗になり、作業したボランティアと依頼された方々の「笑顔」が積み重なっていった事も間違いありません。

活動を通し多くの方々との出会いもできました。

活動の後地元へ帰り、授業参観で七ヶ浜の状況を説明し、父兄生徒一緒に励ましのメッセージボードを作成し送って頂いた、小学校教諭の方。

帰ってから地元でボランティアを始めた等の嬉しい報告もいただきました。

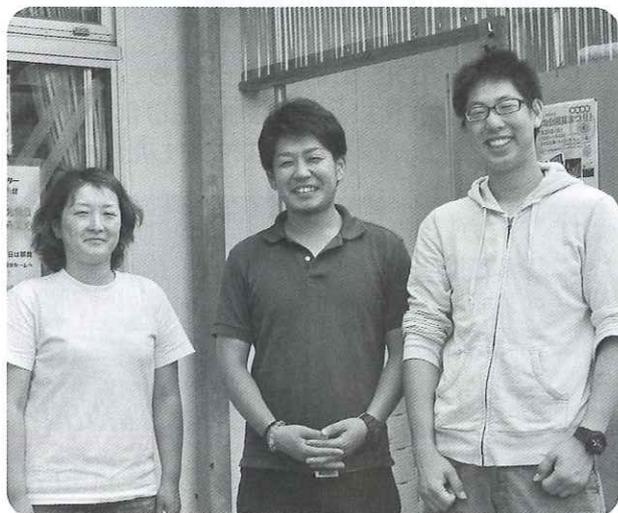
現在私は被災された方々と木工を楽しむ「きずな工房」でお世話をさせて頂いております。



特定非営利活動法人レスキューストックヤード(略称:RSY)

新しいメンバーが加わりました!

東日本大震災が発生した2011年から七ヶ浜を支援してくれているRSY。震災当初はボランティアへの炊き出し、避難所での足湯活動、活動拠点づくり(ボランティアさずな館)、ボランティアセンターの運営サポートなどを行い、現在まで活動を継続しています。「浜を元気に!七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター」内(老人福祉センター浜風)に事務所があります。気軽に遊びに来てください!



写真左/鈴木こず恵(すずきこずえ)です。多賀城市出身で、10年前に縁あって七ヶ浜町民となりました。今年1月からRSYのスタッフとして働いています。  
写真中央/事務局リーダーの松永謙矢(まつながけんや)です。温泉・椎茸・カボスが有名な九州の大分県出身です。2011年6月から年末まで七ヶ浜町でボランティアを行い、大学卒業後、RSY名古屋事務局で1年間、今年4月から七ヶ浜に駐在しています。  
写真右/郷古明頌(ごうこあきつぐ)です。宮城県村田町出身の25歳で、七ヶ浜町には2011年の夏からボランティアに来て、今はRSYのスタッフとして働いています。見かけたらいつでも声を掛けて下さいね!

●情報誌『ドリー夢』とは、夢をかかなる思いをこめて、ボランティアさんが名前をつけてくれました。センタールームの愛称となっています。

七ヶ浜

学習支援ボランティア

大学生協では七ヶ浜で子供たちに向けた学習支援ボランティアを継続して行っています!!

大学生協東北ブロック学生  
委員長 文責 柴田優起(弘前大学3年)

学習支援ボランティアの目的は「勉強を教えて学力向上を図る」ことは勿論ですが、勉強を教えるだけではなく子供たちとのコミュニケーションを大切にしながら一緒になって楽しむことを心がけています。

今の子供たちは、みんなで一緒に遊び、勉強する機会が少なくなっていると感じています。今後も継続的に子供たちに寄り添ったボランティアを続け「心の拠り所」のような存在になりたいと思っています。



多くの子供たちの参加をお待ちしております!!

今後の学習支援ボランティアの予定

- ★9月6日(土) → 中高生向け大学説明会もありますよ!
- ★10月4日(土)

親子スマイルフェスタに  
おもちゃ病院が!!

お子様が大事にしている思い出の詰まったおもちゃ。壊れたまま捨てられずにしまっているもの。大事にしまっていたのに、動かなくなってしまったもの…などがございましたら、ぜひこの機会に会場までご持参ください。

基本的に無料ですが、電池交換や特殊な部品を必要とする場合は、実費をご負担いただくことがあります。 ※3DSやWii U、その他テレビゲームなどは取り扱いません。

日時/平成26年10月5日(日)

午前10時~午後3時(ただし修理受付は2時まで)

場所/七ヶ浜国際村

ボランティア/おもちゃ病院「ひまわり」

問い合わせ先/七ヶ浜町ボランティアセンター

TEL.090-6853-4490

スマイルフェスタ運営ボランティアも募集中です!



※「おもちゃ病院」は壊れたおもちゃを修理することで子供達の心身の向上をめざす地域ボランティア活動です。